

2018年
11月号

Takamatsu JC

Vol. 7

ACTION NOW

公益社団法人高松青年会議所



高松青年会議所事業

・ひとづくり事業

「わくわくワークチャレンジ」

特別対談

高松青年会議所 理事長

国立大学法人 香川大学 学長

松岡敬三 × 笈善行

多様性のある人材を育てるには

対談は3つのテーマに基づいてお話し頂きます。始めのテーマは、「社会がダイバーシティの推進、ワークライフバランスに取り組むことの重要性について」です。宜しくお願ひします。

松岡 ダイバーシティの推進を我々中小企業が積極的に取り組んでいくというテーマに対して、魅力ある会社をつくり、働きたい場所を作っていくことが重要であると考えています。香川大学でもワークライフビジネスを取り入れているとお聞きしていますがいかがですか。

寛 我々も積極的に取り組んでいます。女性教員を増やすこと、役職者に女性を増やすことなどですね。香川大学は、今年度から工学部を母体とした創造工学部を新設しました。新しいアイデアや課題解決方法を積極的に自分で提案できる人材を育てていきたいと考えています。まずは、工学系の人材を育て、後に全学的に取り組んでいくと思っています。出身地、出身国が違う男女混合のグループで、討論を積み重ねることで多様な考えや意識付けをすることが出来ます。すでにアメリカのミネルバ大学では成功例があります。キャンパスを持たない大学ですが、世界に数カ所寄宿舎を持つていて、インターネットを通じたグループワークを一種のインターシップのように始めています。その大学の卒業生は課題解決の応用力に優れ、社会が求める人材に育っています。最近、「香川の課題を解決するためには、香川県の大学に入らないといけない」と香川大学に入学してくれた生徒がいました。それは、高校生時代にグループディスカッションを重ね、課題解決方

寛 善行 × 松岡 敬三

多様性のある人材を育てるには



③「大学と地域または高松青年会議所とどのような協働ができ、またその効果が見込まれるのか」

松岡 私達のような地域で活動している団体や企業と香川大学がどのようにして地域と連携ができますか。

寛 香川の魅力づくりですね。最近、少しずつ香川の魅力が広まってきていると思います。その一つは瀬戸内国際芸術祭です。当初は協力者も少なく苦労されたと聞きましたが、近年は大成功を収めています。他との差別化を図るためには、付加価値を付ける必要があります。そのためにはアイデアを結集させることが必要で、色々なアイデアを出せる人が街に結集していると良くなっていくのではないかと思います。医療の分野ならば香川は医療や介護が安心です、となれるシステムがあれば良いですね。教育の分野においても、良いものは東京でしか学べないのではなく、地方で学べるようにならなくてはならないと思います。

そして地方の香川で学んだ学生が、10年後、20年後に社会に役立つ人材に育てば、香川で教育を受けようとする人がさらに増えていくはずですね。意欲のある方が青年会議所に多くいらっしゃるのは大変心強いです。20年後を作るための中核を担うみなさんと我々が連携するために、香川の社会をどの様にするか議論をしたいですね。例えば、香川大学の教職員や学生と、青年会議所の方々が集まり、グループディスカッションを行えば自然と意識の共有ができ、20年後の香川について議論できるようなっていきませんか。そうですね。

法を学んできた生徒でした。香川大学には地域マネジメント研究科がありますが、8割以上が社会人です。社会人や、年配の方が多く在学しているので、若い学生には年齢や経験の異なる人たちと討論できるチャンスが増えています。これから少子高齢化がますます進行していきませんが、それに適応する人材を育てないといけません。また、人工知能の活躍や外国人の雇用が増える中で、多様性を尊重する意識を育てるには、小学校から意識づけを始める必要がありますね。

松岡 小学校も総合学習が増えるなど積極的に多様性を持たせていますね。

寛 そうですね。それはとても重要なことです。人工知能に将来日本社会はどうすれば滅亡しないのかを予想をさせる実験がありました。最初の分岐点が10年後になると予測されました。その分岐点においては、二者択一でありまして、東京をもっと発展させる方法と、地方に様々な機能を分散させる方法があります。どちらかを選ぶ必要がありますが、人工知能は東京集中よ

ると次の段階に繋がるようになります。企業でも20年同じ事をしていく会社は少なく、上手く業態変化しているところばかりだと思えます。失敗すると生き残れなくて、業態変化をしていくこと、そして、共同作業が大事です。その共同作業で見出した解決方法は最終的には香川においてだけ通用するのではなく、世界中のどこにいても通用するものになりたいと思っています。そのようなことについて、お互いにイメージづくりをしていければいいのではないのでしょうか。

松岡 以前青年会議所で大学生200人の前で授業をさせて頂きました。その中でディスカッションをし、お互いに充実した時間を過ごすことが出来ました。また同じようなことをやりたいと思っています。

寛 いいですね。ぜひ継続的、持続的に続けられる内容にしていきたいですね。



りも地方分散の方が先行きが良いと予測しました。その結果が20年後に分かると予測しています。その地方分散の時代が来た時に香川県がどのようになっているか、多様性を学ぶ若い世代の方がこの地域を守り発展させることが期待されているのです。

松岡 人が住まないと、まちは良くならないと思っと思っています。では、人が住むためには、住む環境と、働く環境の整備が基本と考えます。香川は住む環境は素晴らしいので、残りの働く環境を全力でやらないといけないですね。

②「香川大学で男女共同参画について具体的にどのような取り組みを行っているのか」

松岡 高松青年会議所でもファミリーエの徳倉様に講演頂くなど力を入れていてテーマです。香川大学ではどのような取り組みをされていますか。

寛 大学での女性教員は増えていますが、医学部の臨床系や外科系などは、まだまだ

男性中心の社会です。しかし、そこに女性を入れるはずで、そのためには、結婚、出産をもっと支援しないと行けないはずで、妊娠、出産時に仕事を1年ほど休むと、資格取得が必要な専門医、指導医や認定医では後れを取ると考えてしまうようですが、長い人生の中で2年や、3年は大した年数ではないです。焦りはあるかもしれませんが、その後れを大したことないと思えることが出来れば、50歳ぐらいの時には一緒になっています。加えて、周りが受け入れること、男性が理解することも必要です。これも小学校の教育の中で取り入れても良いのではないかと考えています。女性が頑張っている姿を受け入れられる男性は概して、母親が頑張っている姿を見てきている子供が多いので、積極的に取り組みを行っていかねばならないと思います。



体験風景

働くと給料や、達成感があった

働くことによっていろんな人を助けられ
心を気持ちよくできる事がわかった



夢を持つことが
出きる

お金がもらえて自分で買いものが
できたこと

人の役に立つことをするのは
楽しい

体験ブース

- ①看護師（レインボー恵）②俳優（株式会社劇団マエカブ）③ヘアメイク（サロン・ド・リール）
- ④アナウンサー（K S B瀬戸内海放送）⑤整備士（日産プリンス香川販売）
- ⑥賃貸不動産（グローバルセンター）⑦歯医者（米田歯科）⑧カメラマン（写真家・映像家西本篤司）
- ⑨大工（日進堂）⑩自衛官・警察官（自衛隊香川地方協力本部・高松北署）⑪駅員体験（ことでん）
- ⑫デザイナー（デザイナー坂口祐）

ひとづくり事業 「わくわくワークチャレンジ」



2018年8月18日（土）・19（日）たかまつミライエにて、職業体験イベント「わくわくワークチャレンジinたかまつミライエ」を開催しました。小学生を対象に、様々な職業を体験することで働く楽しさを体験し、将来に夢や希望を描いていただくきっかけにさせていただくことを目標としていました。会場では12の職業体験ブースのほか、高松青年会議所が小学校において行っている「夢育」プログラム（かがやく夢授業）や、外部講師をお招きして保護者向けの子育てセミナーも開催しました。





2019年度（第68代） 会頭当選決定

公益社団法人 日本青年会議所（会頭：池田 祥護、所在地：千代田区平河町 以下「日本JC」）の2019年度（第68代）会頭に、鎌田 長明（かまだ たけあき）君（現職：日本JC 副会頭、所属：公益社団法人高松青年会議所）が内定いたしました。松岡理事長も駆け付け、四国全員で後押ししました。



池田 祥護会頭と鎌田 長明副会頭



松岡理事長

グッドテイスト賞受賞



会員研修委員会の皆様



会員研修委員会
ASPACリーダー
楊委員

ジャパンナイトブースにて、100件以上の出店者の中から会員研修委員会の皆様が設営された讃岐うどんブースが見事グッドテイスト賞を受賞されました！！準備から本番まで、そして材料を香川県から鹿児島まで車で配送するなど長時間かけての段取りが実を結びました。

●ASPACとは
国際青年会議所（JCI）は、4つのエリアに分かれており、毎年開催地を変えてエリア会議を行います。日本JCが所属するエリアで開催される会議のことをJCI Asia Pacific Area Conference（アジアパシフィックエリアコンファレンス）といい、略称ASPAC（アスパック）と呼ばれています。毎年国内外からおおよそ1万人のJCメンバーが参加する大きな大会です。個と個の交流、世界と地域の交流を通しての有益な情報交換、相互文化理解は、グローバル社会を生きる私たちにとって今まで培った精神を発露、発展させていく民間外交の最高の機会です。



入会者募集



【新入会員募集】

「明るい豊かな社会」の実現を目指す青年会議所の基本の一つは、地域の産業を担う20歳～40歳の青年が人的ネットワークを広げ、さらには青年会議所の各事業を通して切磋琢磨し、厳しい経済情勢のなかにあっても力強いリーダーシップを発揮できる人材を開発することにあります。「一人でも多くの、志を高く持つ仲間に出会いたい!」との一念で会員拡大事業に取り組んでおります。

会員一同共に夢を語り合える仲間として、青年会議所の扉を開いていただけることをお待ちしております。

【入会に際して】

所属されている企業・経営されている企業の形態や規模は一切関係ありません。個人経営の方から、サラリーマン、OLの方たちまで幅広い多くのメンバーによって構成されています。

自分に投資し自己を成長させ、一緒に自己を企業の発展を目指していきませんか?

私たちと一緒に活動できることを切に願っております。
お気軽にお問い合わせください。



詳しくはこちらへ
高松青年会議所入会のご案内
<http://takamatsu-jc.com/nyukai>



会員拡大会議 議長
井角文洋


(株)ナセル 代表取締役
ビルメンテナンス(美装業)

ACTION NOW 2018年11月号

編集・発行所 平成30年11月10日発行

公益社団法人 高松青年会議所
〒760-0029
香川県高松市丸亀町2-13
丸亀町式番街3号館4階
TEL:087-811-4677
FAX:087-811-4678



編集者 

総務・広報委員会
理事委員長
山吹公一郎
(株)日進堂 執行役員部長
建築業



スマートフォン、タブレットの表示に対応しています。

QRコードで
今すぐアクセス!

<http://takamatsu-jc.com>

高松JC

検索 